

医学教育学

担当指導医師

● 本学

教授：伊藤 智範

教授：高田 亮

特任講師：相澤 純

学修方針（実習概要等）：

PostCC OSCEに必要な知識・技能の再確認を行う。これまでに学習した多職種連携を、実臨床の場で体験し、患者や他職種のメンバーとの良好なコミュニケーションを通じ、患者の抱える問題点を解決する。

教育成果（アウトカム）：

患者の愁訴を基に、症候別に鑑別すべき疾患を抽出し、鑑別に必要な医療面接・身体診察を行い、臨床推論を行うことができる。実臨床の場で、患者や他職種のメンバーとのコミュニケーションを通じ、良好な関係を築き、協働して患者の抱える問題点を解決することができる。

（ディプロマ・ポリシー：1,2,3,4,5,6）

行動目標（SBOs）：

1. 症候について、鑑別に役立つ医療面接、診察手技についてまとめ、成果物に沿って鑑別すべき疾患をグループ化する。
2. 臨床実習で学修できなかった医行為を抽出し、修得に必要な資料を作成する。
3. 患者や他職種のメンバーと協調し、良好な関係性を築く。
4. 他職種と協働して、患者の抱える問題点の解決策を議論し、提案する。
5. 患者さんの訴えに対し、適切な医療面接、診察手技を行い、指導医にプレゼンテーションする。

特に留意すべき注意事項：

作成・提出物については原則当日中にフィードバックを行う。それ以外に態度についても評価を行う。

事前学習時間：

医行為基準で経験していないものを抽出しておくこと。症候学のスライド、エクセル表を確認しておくこと。

スケジュール：

月～木：指定された作業を行う（8:50～16:00）。

金：作成物に関し、プレゼンを行い、評価を行う。

なお、多職種連携に関する実習は他学部の予定に合わせて行う。大まかな予定表はスケジュール表を参照のこと。

学外医療機関で実習を行う可能性もあり、その際は別途連絡する。

その他：

ヒボクラテスの時代から「後進育成」は医療人の責務であり、医師は医療チームにおけるリーダーとしての役目を負っている。近年、伝達技法は OSCE でも評価されるようになっており、また、多職種連携に関する技能は、将来的にも実社会ですぐ役に立つものである。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
実習用機械	タッチディスプレイ BIG PAD	1	プレゼン技法修得
実習用機械	バーチャルスライドシステム	1	e-learning 教材作製
実習用機械	Body Interact（シミュレーションソフト）	1	医療シミュレーション教育

高次臨床実習スケジュール [医学教育学] 多職種連携実習

指導医師名：①伊藤智範教授 ②高田亮教授 ③相澤純特任講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月 [場 所] (指導医)	8:50 オリエンテーション [医学教育学講座] ①②③	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③
火 [場 所] (指導医)	外来実習 [内丸 MC] ①	外来実習 [内丸 MC] ①	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③
水 [場 所] (指導医)	外来実習 [矢巾 附属病院] ②	外来実習 [矢巾 附属病院] ②	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③
木 [場 所] (指導医)	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③
金 [場 所] (指導医)	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③	フィードバック [医学教育学講座] ①②③	まとめ [医学教育学講座] ①②③